<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：梅の木保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：平井 宏明	定員（利用人数）：58名（利用人数58名）
所在地：〒240-0054 横浜市保土ヶ谷区西谷1-25-22	
TEL：045-371-2700	
ホームページ：http://park16.wakwak.com/~nishiyaumenoki/umenoki.html	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成30年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 西谷梅の木福祉会	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員： 12名
専門職員	（専門職の名称） 名 保育士：19名 （常勤12名・非常勤7名） 保育補助：5名（非常勤）
施設・設備の概要	（居室数）保育室：6 トイレ：2 多目的トイレ：1 調理室：1 事務室：1 相談室：1 更衣室：1 （設備等）園庭：有

③理念・基本方針

児童福祉法に基づき、充実した保育所運営を図り、地域と密着した地域の児童福祉に貢献する。

- 愛情に満ち溢れた保育を目指し、豊かな人間性を育てます。
- 地域に開かれた施設として保育園としての機能を発揮していきます。
- 地域社会や保護者の意見を大切に相互の連携を密に信頼関係に基づく保育所運営に努めます。

保育目標

*適切な環境のもとで、基本的な生活習慣を身に付け、豊かな心を育て、集団生活の中で協調性を高める。

*地域での行事や活動の体験を通し、人々の触れ合いを大切にする心を養う。

*明るい子（心情）元気な子（意欲）素直な子（態度）を心身の発達を目指した当園のスローガンとして、一人ひとりの健やかな成長を願う視点とする。

④施設・事業所の特徴的な取組

乳児育児担当制でひとりひとりとの関わりを持ち、愛着形成の経験をし、集団生活を小グループでの活動で経験している。

乳児育児担当制で生活の基本的習慣をひとつひとつ身につけていく。

3歳以上は異年齢での生活を土台にし、きょうだい経験を積みながら成長をする。見本にすべき姿が身近にあることにより

自主性を伸ばし、学びの基礎である真似る力を引き出していく。

子ども社会をキーワードに年長児を中心にこどもの力で集団生活を構成していき、協調性社会性を育む。

大人は見守りを基本とし、手を出して成長を阻害することないように関わりを持っていく。電磁機器に頼ることのない保育を提供している。キャラクターの使用限定し安易に電磁機器に関わるきっかけとならないよう家庭への影響も考えている。

体験経験を大切にし、本物とのふれあいの場を提供する。

園庭には季節の木々があり、収穫できるようになっており食育にも活かせるようにしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年9月1日（契約日） ～ 令和4年4月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	- 回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1) 担当制保育による子ども一人ひとりを尊重した保育
0～2歳児クラスでは、育児担当制を導入しています。保育士は、子ども一人ひとりの状況を十分に把握して気持ちに寄り添い、信頼関係を築きながら保育にあたっています。保護者とのコミュニケーションを密に図りながら子どもの育ちを伝え合い、子どもが自分のペースで生活習慣を少しずつ身につけられるようにしています。子どもたちは、ありのままの姿を保育士に受け止めてもらい、安心して園生活を送っています。

2) 異年齢保育を実践して子どもの主体性を育む
3～5歳児クラスでは、生活の場面を中心に異年齢保育を実践しています。3歳児は、4、5歳児が身近で手本を示す様子を真似ながら様々なことを覚えていきます。4歳児は、年上らしくしようという自覚が芽生え、言葉で伝えていく大切さを学びます。5歳児は、これまで優しくしてもらった日々の体験から主体的に年下の子どもたちに関ることができています。保育士は、子どもたちが互いに育ち合う様子を見守りながら援助しています。

3) 環境づくりにより心身の健やかな成長を促す
子どもたちにとって、園が「小さな保育園」ではなく「大きなおうち」となるように、家庭的な雰囲気を大切に環境整備を行っています。園庭には、梅やみかんなど緑豊かな季節の木々があり、食育活動の中で梅の実を収穫して梅ジュースを作るなどしています。園庭には木製の温もりを感じる固定遊具もあり、子どもたちの年齢に応じて遊び方を工夫して楽しみながら体幹バランスを鍛えられるようにしています。子どもたちは、日々の活動の中で小さな体験を少しずつ積み重ねながら、心身ともに健やかに成長しています。

◇改善を求められる点

1)課題の改善に向けた組織的な取組

日々の保育の中での職員の気づきを業務改善につなげたり、話し合いの場を増やすなどして職員間の意見交換を活発に行えるよう取り組んでいます。今後は、職員参画のもとで園の自己評価を定期的を実施し、改善すべき課題を職員全体で共有することが期待されます。今後はさらに、職員の意見を反映させながら保育の質の向上に向けた改善策を具現化し、園としての方向性を明示して、改善のための取組を組織的に実施されることが期待されます。

2)総合的な人事管理システムの構築

法人が目指す保育の実現に向けて、障がい児保育や保護者支援、育児担当制保育などの法人研修を実施するなどして人材育成に取り組んでいます。今後はさらに、理念や方針にもとづいた「期待する職員像」やキャリアパスの仕組みを明確にするとともに、職員一人ひとりの育成に向けた人事考課や目標管理を行い、職員が自らの将来の姿を描くことができるような総合的な人事管理システムの構築が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

梅の木保育園4年目として初めて受けることになりました。神奈川県のものをはじめ受ける職員が多く、硬い表現多職種対応の質問事項に苦慮していました。保育園に対して特化したものではないので保育園では何に当てはまる項目のなのか単語に対しても時間がかかるものでした。

保護者アンケートに関しては初めてのアプリを利用したものとなり、回答数に期待をしていたのですが回答期間が年末年始をまたいだこともあり、期間の設定にも気を配るべきでした。

現時点での保育園の位置を示し、積み重ねをしていく算段を考えていきたいと思えます。本来梅の木保育園としてこういうことをしていますというアピールできる場にできなかったのですが、「評価が高いものは向上心がないものとみなします」と説明を受けた影響が大きかったようで萎縮した受け身の受審となりましたが今後につなげていければと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり